

群馬県立桐生特別支援学校 学校評価一覧表(令和6年度版)

(様式)

羅針盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等					総合
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 学校Webページ等で、教育活動の様子を保護者や地域へ積極的に情報発信していますか。	学校Webページで、各学部や全校での活動の様子を掲載し、月に1回以上の更新を行う。	教務部	○学校Webページ「特色ある教育」活動の様子」の項目の充実を図る。 ○学校Webページをより多くの人に見てもらえるよう、閲覧できるURLやQRコードを様々な場面で周知していく。 ○配布物やチラシ等について、学校メールでのデータ配信を行うことで、保護者へ迅速な情報提供ができるようにする。	A	A	A	○学校Webページの「特色ある教育」の内容を刷新した。また、「活動の様子」を毎月更新し、情報発信を行った。 ○学校Webページへアクセスしやすいよう、学校要覧・学校案内等にQRコードを掲載した。 ○配布物をデータ配信できるよう、準備を進め、職員間でテスト配信を行った。	○定期的に更新されて、児童生徒の活動状況がよく分かる。 ○WEBページや「きりとくどり」を通じて学校の様子を知ることができた。 ○学校内での様子が分かりやすく、とても良い。	○配布物のデータ配信を進める。 ○行事の2週間前に学校HPで告知をしたり、実施後1ヶ月を目安に活動の様子をあげるなどとして、速やかに情報発信を行う。
	2 ニーズを踏まえ、より多くの保護者や教職員が主体的に参加・参画するPTA活動を推進していますか。	PTA主催の講演会や見学会等を年4回以上実施し、参加者の80%以上が内容に満足している。	渉外部	○保護者と教職員にアンケートを実施して、ニーズに合った講演会等を企画する。 ○講演会等について、保護者と教職員がともに参加しやすい日程や内容になるよう工夫する。また、当日の様子について、欠席者にも周知する。	A	A	A	○進路講演会など、保護者や教職員のニーズに合ったものができたと思う。 ○当日の様子は、「きりとくどり」を中心に様子を伝えた。	○保護者が参加できる機会を増やせると良い。 ○講演会等の主催はPTAとなっているが、PTAの理解はどうか。年4回の実施は厳しいのではないかと感じる。 ○各行事の実行について、素晴らしいと思う。	○引き続き、保護者や教職員のニーズに合った講演会内容を考えていくとともに、参加しやすい日程を調整する。
	3 地域の学校とお互いに経験を深め社会性を養うような、交流及び共同学習を推進していますか。	相互の学校のニーズに基づいた学校間交流や共同学習を、小・中学部ともそれぞれ4回以上実施する。	渉外部	○学部内で児童生徒の実態に基づいた交流内容や交流のねらい、時期について話し合い、共同学習という視点から計画及び実施をする。 ○相手校と密に連絡を取り、お互いのニーズに基づいた交流内容にする。	A	A	A	○地域の菱小学校、梅田南小学校との交流、共同学習をそれぞれの学校について2回ずつ、計4回行った。	○地域の大人や高校生などとの交流もできると良い。 ○ぐんま広報の特集でインクルーシブ教育の記事を目にした。今後の方向性として進んでいくのどうかと気になった。 ○交流により、他校との交流が密になっていると感じる。 ○地域の新聞等で交流内容を知り、貴重な経験だと感じた。	○本校の児童の特性を知らせながら、お互いが有意義な交流会をしていくために交流のねらいを明確にするなど、相手校と連絡を取り合う。
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	4 桐生市内の園・小学校・中学校等への支援(相談事業・実態把握・支援方法)の充実をはかっていますか。	桐生市療育支援相談部会「つばさクラブ」(年8回)の運営に参加し、発達などに気がかりなことのある年長児に対し、スムーズな就学を支援する。	相談支援部	○PDCAサイクルを通し、幼児との適切ななかかわり方や支援について考える。 ○就学相談を進めるために、個別の相談を通して保護者との関係を築く。 ○発達や就学に向けた地域の情報提供を行い、就学先につなげる必要な情報を共有するためのサポートファイルの作成支援を行う。	A		A	○桐生市療育支援相談部会「つばさクラブ」(年8回)の運営にすべて参加し、発達などに気がかりなことのある年長児の実態に合わせた活動を考え、実施した。 ○保護者と個別に相談する機会を設け、就学に向けた支援を行った。	○特別支援学校の持っているノウハウを他の学校へ伝え、アドバイスをもらいたい。 ○個別の相談により関係が深くなり、必要な情報が得られると感じた。	○教材教具展の充実を図る。 ①展示された教材教具について、来校者に必要に応じて解説する。 ②教材教具展の際に時間を設け、アドバイザーが参加者に、具体的な支援等について話をする。
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	5 児童生徒の実態に合わせ、より主体的に学べる学習内容を工夫していますか。	適切な実態把握に基づいた国語・算数(数学)、自立活動における協同学習の時間を確保し、児童生徒が学び合い主体的に学習活動へ取り組むための、授業改善を行っている。	学習指導部	○校内研修において単元における振り返りシートを活用し、生徒が協同学習を通し主体的に学び合う姿の記録を行い、全体やグループで授業改善のための研修を学期ごとに行い共有する。	A	A	A	○時間割に国語、算数・数学の指導時間を明確にし、各クラスごとに協同学習を進めた。また、校内研修において学部別に国語、算数・数学のグループに分かれ、各教員が年2回振り返りシートを作成した。作成の過程やその後のグループや全体での研修内容を授業改善に生かし、児童生徒がより主体的に学び合う姿につなげることができた。	○得意な分野を伸ばし、オンリーワンな子供達が大きく伸びていると思う。 ○よく工夫している。	○振り返りシートを継続して活用し、児童生徒の目標no設定や評価を行い、学習活動に生かせるようにしていく。 ○学習指導要領に基づいて、アセスメントシート等の活用を行い、授業改善につなげる。
	6 iPad等のICT機器を学習活動に活用するとともに、実践事例を数多く職員等で共有し、技術の向上に努めていますか。	一人一台のiPadを、児童生徒の学習活動に活用するとともに、ICTの活用に関する校内研修を行うことで、職員の技術を向上する。	学習指導部	○各教員が作成した教材をgoogle drive等で学校全体で共有し、児童生徒の実態に合った学びに生かしていく。 ○ICTの活用に関する校内研修において、ICT機器の使い方や、アプリを活用した教材作成等について、職員の理解を深める。 ○ICT教材の事例紹介をWebページに掲載することで、ICT活用に関する理解と啓発を図る。	A	A	A	○google driveの活用により、スライドや視覚教材などを共有し、授業に活用することができた。 ○校内研修では、FigJamの活用について研修を行った。 ○ICT教材の活用事例については、教材教具補助資料を掲載した。	○技術の進歩はめざましく、先生方も大変だと思うが、時代に合った授業を目指し頑張っている。 ○素晴らしい取り組みだと思う。	○児童生徒の指導に直接活用できるようなアプリケーションを導入し、校内研修等で使い方の研修を行う。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	7 健康に関する配慮や対応、指導を適切に行っていますか。	児童生徒の健康上の配慮事項について全体で共通理解できるように、情報共有会議等を年1回以上実施している。	保健部	○健康上の配慮事項が共通理解できるように、4月に情報共有会議を実施する。 ○配慮事項について変更や追加をする場合は、朝会や部会で周知するようにする。	A	A	A	○児童生徒の健康上の配慮事項について、年度初めに職員全体で情報共有会議を実施することができた。 ○配慮事項への変更や追加について、朝会等を通して周知することができた。	○適切に行っている。	○児童生徒の健康上の配慮事項について、年度当初に職員全体で情報共有を行う。追加、変更についても、朝会等を通して周知する。
	児童生徒の実態や発達段階に応じた保健指導や給食指導を年2回以上実施している。	○発達段階に応じて、低学年、高学年、中学部等グループ分けをして保健指導を実施する。 ○保健指導実施後は、連絡帳や保健便り等で知らせ、学校と家庭で情報を共有し、個に応じた配慮や対応を行う。 ○給食指導では、楽しくおいしく給食を食べることができるように、一口メモや図書給食の共有を月1回程度行うようにする。		A	A	A	○発達段階に応じて、保健指導を実施することができた。 ○保健指導実施後は、便り等でお知らせすることができた。また、学校と家庭への情報共有を行うことができ、個に応じた配慮や対応を行った。 ○給食指導では、一口メモや図書給食の共有を月1回行うことができた。	○給食の完食状況について、児童生徒皆が完食できていると良いと思う。	○引き続き、児童生徒に楽しく分かりやすい保健指導を実施していく。 ○保健指導の内容等を、連絡帳やお便りを通して保護者へわかりやすく知らせる。 ○児童生徒が給食を楽しめることができるよう、給食指導の一口メモや、図書給食のお知らせを引き続き行うとともに、図書給食について、本の表紙を紹介するなどしていく。	
8 危機対応マニュアルに基づいた避難訓練を実施するとともに、児童生徒の安全対策や環境整備を適切に行っていますか。	危機対応マニュアルに基づいた避難訓練を年4回、各教室等の安全点検を月1回実施する。	管理部	○避難訓練前に全職員が危機対応マニュアルを確認する機会を設ける。 ○安全点検の結果を事務部と共有し、補修や修繕を速やかに行う。	A	A	A	○前年度と同様に安全を考慮した避難訓練を4回実施することができた。 ○毎月1回の場所別安全点検を行い、補修や修繕を行うことができた。	○17区の防災避難訓練にも参加してほしい。 ○避難訓練等、適切に行っている。	○下校時避難訓練を実施する時期について、寒さを考慮し、11月上旬に実施することとする。	
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	9 キャリア発達段階、指導目標を明確にし、家庭とともに将来の姿を考える指導を行っていますか。	担任が個別の指導計画等をもとに、キャリア発達能力の目標に照らし合わせ、児童生徒の成長を振り返り、キャリアノートにまとめることを学期末に実施する。また、2学期3学期の個別面談の際に、保護者にキャリア発達の成長を伝える。	学習指導部	○全職員に対して、キャリア教育の主旨や本校の進め方等を説明し、共通理解を図る。 ○学期ごとに児童生徒の成長を振り返り、キャリアノートに記入する。 ○年度末にキャリアパスポートファイルにまとめる。 ○個別面談の際にキャリア発達能力の目標一覧を保護者に提示しながら、これまでのキャリア発達の成長や次の目標を伝えることで、本校におけるキャリア教育の理解啓発を図る。	A	A	A	○全職員にキャリア教育の共通理解を図り、進めることができた。 ○個別面談で保護者にキャリア発達の成長や目標等を伝えることができた。また、学校におけるキャリア教育の理解啓発を図ることができた。	○高学年の児童生徒について、将来の自立に向けたさらなる指導をお願いしたい。 ○学期ごとのキャリアノート作成は素晴らしいと感じる。成長がよく分かる。	○引き続き、保護者にキャリア教育の理解啓発を行う。 ○キャリア発達を意識した指導を促すとともに、学期ごとに児童生徒の成長の記録をキャリアノートにまとめていく。
VI 「学校いじめ防止基本方針」に基づいて組織的に取り組みを行っていますか。	10 いじめや問題行動等の未然防止、早期発見、早期解決等、学校全体での組織的な対応をしていますか。	いじめや問題行動の未然防止及び、早期発見に向けて、保護者や児童生徒から、年3回いじめアンケートを実施している。	生徒指導部	○本校におけるいじめの判断と対応について全職員で確認する機会を設ける。 ○いじめとみられる事案が起きた場合には、担任は部主事、生徒指導主事に伝えるとともに「いじめ事案データベース」への入力を行い、全職員で共通理解を図る。また、対応が必要な場合にはいじめ防止委員会を開く。 ○いじめの定義等をPTA総会で保護者へ伝えていじめについての理解を図ったり、ホームページに掲載したりする。	A	A	A	○本校のいじめ判断と対応について、職員に伝えることができた。 ○いじめとみられる事案については部主事を通して、生徒指導主事に報告をいただくこと「いじめ事案データベース」への入力をお願いした。また、いじめアンケート実施時に、「いじめ事案データベース」への入力をお願いした。 ○PTA総会において、いじめの定義等について保護者に伝えた。また、本校の「いじめ防止基本方針」を保護者に配付したり、ホームページに掲載したりして理解を図った。	○児童生徒は皆仲が良いように見受けられる。 ○いじめの定義を教職員が理解し、保護者にも伝えていく機会を作っていることが素晴らしい。	○いじめ判断と対応について、生徒指導対策協議会で示された資料を職員に提示するなどし、引き続き全職員への周知を図る。 ○保護者に対し、いじめを含めた本校の取組をPTA総会や通信等で周知していく。